



”北欧のフェルメール“、再び東京へ。

Vilhelm Hammershøi
and Danish Painting of the 19th Century

Hammershøi



”北欧のフェルメール“、再び東京へ。

Vilhelm Hammershøi
and Danish Painting of the 19th Century

“北欧のフェルメール”、再び東京へ。

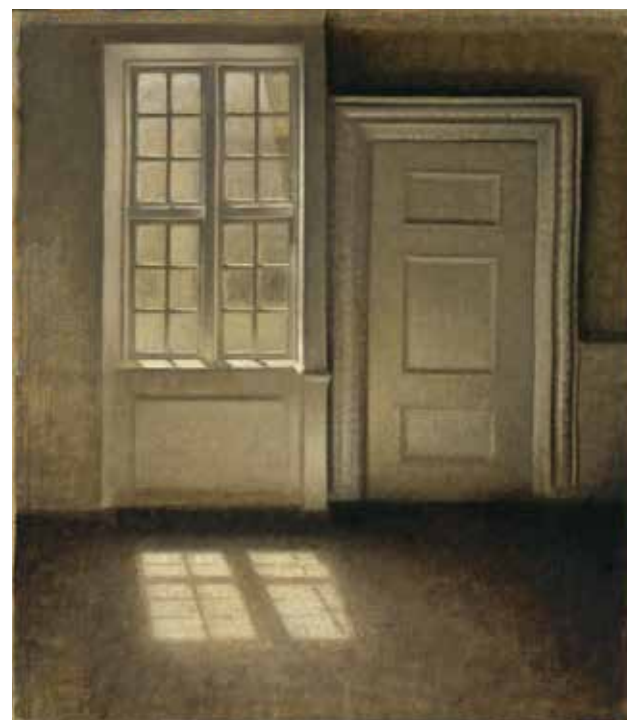
身近な人物の肖像、風景、そして静まりかえった室内——限られた主題を黙々と描いたデンマークを代表する画家ヴィルヘルム・ハマスホイ(1864-1916)。17世紀のオランダ絵画に影響を受け、静謐な室内表現を特徴とすることから“北欧のフェルメール”とも評される画家は、1990年代以降、パリのオルセー美術館やニューヨークのグッゲンハイム美術館などで次々と回顧展が開催され、再び脚光を浴びています。日本でも2008年に展覧会が開かれ、国内の美術ファンに強い印象を残しました。

そのハマスホイをはじめ、デンマーク近代絵画の精華を日本で初めて本格的に紹介する展覧会が2020年1月、東京で開催されます。デンマークが生んだ珠玉の絵画の数々を堪能ください。

“幸福の国”デンマークが生んだ、心あたたまる名画。

たとえば暖かい部屋で家族や親しい友人と食事を楽しんだり、キャンドルをともして誕生日をお祝したり——ほっこり幸せな雰囲気であらわすデンマークの言葉「ヒュゲ(hygge)」。国連の「世界幸福度ランキング」で何度も1位に輝くデンマークのライフスタイルを語るうえで外せないキーワードです。

19世紀に活躍したデンマークの芸術家たちにも、現代のデンマーク人が大切にしている「ヒュゲ」の原型、すなわち対象をみつめるあたたかい眼差しがありました。北欧の美しい自然やそこで暮らす人々、プライベートな空間でくつろぐ家族や友人の姿——展覧会では“幸福の国”デンマークが生んだ、心あたたまる名画を紹介します。



ハマスホイとデンマーク絵画

Vilhelm Hammershøi and Danish Painting of the 19th Century



2020年1月21日(火)ー3月26日(木)

主催：東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、読売新聞社
後援：デンマーク大使館

展覧会公式サイト: <https://artexhibition.jp/denmark2020/> 展覧会お問い合わせ: 03-5777-8600(ハローダイヤル)
巡回先: 2020年4月7日(火)ー6月7日(日)[予定] 山口県立美術館

1 ヴィルヘルム・ハマスホイ 「ピアノを弾く妻イダのいる室内」 1910年 国立西洋美術館蔵 [東京展のみ出品] 2 ヴィルヘルム・ハマスホイ 「室内一隅光習作、ストランゲゼ30番地」 1906年 デーヴィズ・コレクション蔵 The David Collection, Copenhagen 3 ヴィルヘルム・ハマスホイ 「画家と妻の肖像、パリ」 1892年 デーヴィズ・コレクション蔵 The David Collection, Copenhagen 4 ヴィルヘルム・ハマスホイ 「ライラの風景」 1905年 スウェーデン国立美術館蔵 Photo@Nationalmuseum, Stockholm 5 ヴィルヘルム・ハマスホイ 「農場の家屋、レスネス」 1900年 デーヴィズ・コレクション蔵 The David Collection, Copenhagen 6 ヴィルヘルム・ハマスホイ 「室内一隅の扉、ストランゲゼ30番地」 1905年 デーヴィズ・コレクション蔵 The David Collection, Copenhagen 7 ビーザ・スィヴェリオン・クロイア 「昼食—画家とその妻マリー、作家のオト・ベンソン」 1893年 ヒアシュプロング美術館蔵 The Hirschsprung Collection, Copenhagen 8 クレステン・クブゲ 「カステレス北門の眺め」 1833-34年 ヒアシュプロング美術館蔵 The Hirschsprung Collection, Copenhagen 9 ビーダ・イルステス 「縫物をする少女」 1898-1902年 リーベ美術館蔵 Photo:@Ribe Kunstmuseum 10 ヴィゴ・ヨハンソン 「きよしこの夜」 1891年 ヒアシュプロング美術館蔵 The Hirschsprung Collection, Copenhagen